**参考様式第７号**

番　　　号

年　月　日

福岡県肥料コスト低減推進協議会長　殿

所在地

取組実施者名

代表者氏名

令和４年度及び５年度福岡県化学肥料低減対策事業取組中間報告書

福岡県化学肥料低減対策事業実施要領（令和４年１０月１４日付け４経技第３１６４号）第12の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

取組の実施状況

|  |  |
| --- | --- |
| 取組メニュー | 取組の実施状況 |
| ア　土壌診断による施肥設計 | 農家への呼びかけを強化し、土壌診断の実施点数が増加傾向となっている。 |
| イ　生育診断による施肥設計 | 品目ごとの講習会に農家が参加し、生育状況に応じて基肥や追肥を加減した。 |
| ウ　地域の低投入型の施肥設計の導入 | 地域に合った低投入型肥料（銘柄：○○○○）を施肥設計に採用した。 |
| エ　堆肥の利用 | 堆肥（銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。  堆肥提供者と供給量について交渉を行っている。 |
| オ　汚泥肥料の利用（下水汚泥等） | 汚泥肥料（銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。  基肥の一部を汚泥肥料に変更した。 |
| カ　食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外） | 食品残渣など国内資源を利用した肥料（銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。 |
| キ　有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用 | 有機質肥料（銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。  基肥の一部を有機質肥料に変更した。 |
| ク　緑肥作物の利用 | 緑肥種子の利用料（注文数量）が増加した。 |
| ケ　肥料施用量の少ない品種の利用 | ○○○○（品種）を推奨品種に選定して作付拡大を図っている。 |
| コ　低成分肥料（単肥配合を含む）の利用 | 低成分肥料（肥料銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。 |
| サ　可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む） | ドローンを活用した追肥作業が行われている。 |
| シ　局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用 | 一部の農家がうね立て同時施肥機を購入。  基肥の施用法を全層施肥から局所施肥に変更して減肥した。 |
| ス　育苗箱（ポット苗）施肥の利用 | 育苗箱専用の〇〇〇〇（銘柄）の利用量（販売量）が増加傾向となっている。 |
| セ　化学肥料の使用量及びコスト低減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。） | 農家に低価格の〇〇〇〇（銘柄）を紹介したところ、利用量（販売量）が増加傾向となっている。 |
| タ　県独自技術の利用（別紙①稲わら等有機物のすき込み） | 稲わら等有機物をすき込み、土づくりを行った。 |
| タ　県独自技術の利用（別紙②石灰等の土壌酸度矯正資材の投入） | 石灰質資材（銘柄：○○○○）の利用量（販売量）が増加した。  石灰質資材の施用により、土壌診断の結果、土壌酸度が改善された。 |
| タ　県独自技術の利用（別紙③ゼオライト等の土壌改良剤の投入） | ゼオライトを施用することで、土壌の保肥力が向上し、減肥につながった。 |
| タ　県独自技術の利用（別紙④緩効性肥料の投入） | 基肥の一部を速効性の肥料から緩効性の被覆肥料（銘柄：○○○○）に変更することで従来の窒素施用量を減肥した。 |

（注）

１　取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。

２　参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録を参照し記入してください。